

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	ポストコロナを見据えた静岡県観光戦略の調査研究				
研究組織	代表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	大久保 あかね
	研究分担者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	八木 健祥
		所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	アムナー カウクルアムアン
		所属・職名	経営情報学部・特任教授	氏名	北上 真一
	発表者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	大久保 あかね

講演題目	静岡県におけるガストロノミーツーリズムの可能性
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究は、静岡県の観光政策の重要な一角を担う、ガストロノミーツーリズムの方向性を検討することを目的とする。</p> <p>静岡県は世界文化遺産でもあり日本一の高さを誇る富士山や南アルプス、また日本一深い駿河湾、世界ジオパークでもある伊豆半島、浜名湖など、多様な自然風土が織りなす美しい景観や温泉に恵まれた「観光立県」である。また豊かな自然環境を背景に、弛まぬ努力によって439品目の農林水産物を算出する「食材の王国」である。</p> <p>しかしながら、算出された質の高い食材は県外で消費される傾向にあり、せっかく静岡を訪れた観光客によって消費される仕組みが出来上がっていないのが現状である。</p> <p>ガストロノミーツーリズムとは、「その土地の気候風土が生んだし食材、習慣、伝統、歴史などによって育まれた食を楽しみ、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズム」であり、静岡県の観光における重要な課題となっている。</p> <p>本年度は、2月にガストロノミーツーリズムの最先進事例であるスペインのサンセバスチャンを訪問し、モンドラゴン大学料理学部バスクカリナーセンター(以下、BCC)、業界団体DMOなどへの取材を行い、多くの知見を得ることができた。</p> <p>すべての組織が「文化としての食」を大切に育てていること、それを軸として組織同士が連携して、食文化をビジネスとして成功させるための仕組みを共有している。</p> <p>例えば、BCCは人材育成と研究開発(メニューなどの調理技術から、メーカーとの調理器具開発、食分野のDXなど)を担い、飲食業組合は市内飲食業者の支援(法的、税務会計システム支援、セミナーなどの運営の他、ピンチョスコンクールの企画を通じた若手調理士の発掘など)、DMOによる観光客のコントロール(オーバーツーリズムの回避、需要の平準化)などに取り組んでいる。またデータの蓄積と公開は、観光業と市民との関係の再構築にも効果を発揮している。</p> <p>例えば、サンセバスチャン市のツーリズム施策の効果を、失業率(全国平均20%に対して8%)やGDP(ユーロ全体平均の+27%)などの算出によって提示している。その結果、一般市民もガストロノミーツーリズムのステークホルダーとなり、ともに食を楽しむ文化を提供する機運を醸成している。</p> <p>本研究の成果は、次年度から全学共通科目で開講するガストロノミーツーリズム講座と、令和6年度に開講するコンソーシアムの講座に取り入れたい。また、サンセバスチャンの視察先との連携を強化し、静岡県の観光戦略への多角的な助言に繋げていくことを今後の課題とする。</p>